「手は離すけど、
目は離さない」

ふくじゅ　　みづき
福寿　満希 氏

株式会社 LORANS.- ローランズ - 代表取締役

花や緑を通じて働く幸せを感じられ、多様な人材が認め合い活躍できる社会を目指して、福寿さんが起業したのは 6 年前のことでした。会社設立 3 年目の春、障がい者の施設で花のレッスンを行ったことをきっかけに障がいと向き合うスタッフの雇用を開始。現在、都内に 3 店舗ある生花店（うち 1 店舗はカフェが併設されている）には、60 名のスタッフの中 45 名（75%）が障がい者雇用枠スタッフとして活躍しています。

「店舗数を増やすことではなく、小さな会社だからこその特徴を活かして、障がいと向き合うスタッフと共にフラワーサービスができる」大手企業に考え方を共有していくこと、マネしてもらえることを増やしていくことで社会課題の解決に繋げたいと考えています。

花は、暮らしや人生のさまざまなシーンに彩りを与えてくれます。自宅の一角で始めた花の受注販売が軌道に乗り、アトリエを借りられるまでになったころ、「気がつくと他の花屋さんと変わりのないことをしていて、ソーシャルビジネスと言って起業したのに全然違う」と改めてソーシャルビジネスとは、という初心に立ち返りました。そこで、生花店での現場で当たり前になっていた「やむを得ず捨てられてしまう花たち」の再資源化にチャレンジします。「はじめて社会に何か役に立つ事業としてお金が回るようなものに出来た」しかし、「まだまだ社会にインパクトのある事業ではない」ことを感じていた中で、給与や働く場が少ないという障がい者の就労の実態を知って、現在の障がい者雇用の取組へと繋がっていきます。

- 石川県生まれ、中高大とテニスに打ち込む
- 大学では特別支援学校教諭の免許も取得し、教育実習を経験
- スポーツマネジメント会社に就職、プロ野球選手の社会貢献活動に携わる
- 2013 年 株式会社 LORANS. を起業
- 2018 年 都内 3 店舗展開。従業員 60 名中 45 名が障がい者雇用枠のスタッフとして活躍

めがねがなかった時代、
目の悪い人は障がい者と言われていた

統計学において、他のデータから大きく乖離したものは外れ値とみなされます。同じように「その時代の平均からどのくらい離れているか、その時の社会の在り方によって障がいの考え方も変わってくる」と福寿さんは紐解きます。その上で、社内では「工夫次第で働く上での障がいはなくすことが出来る。働く上であなたは障がい者ではない」ことをよく伝えると言います。あなたという人間をどう思うか、苦手なことは何か、どんな得意なことがあるのか、補い合う工夫をしています。さらに、「手は離すけど、目は離さない」と強調します。「自分の思った通りに行動してもらい、できなかったことも含めて経験を奪わないように心掛け、働き続けることで得られる幸せを積み重ねてほしい」福寿さんの想いの裏側にあったのは具体的で説得力のある行動指針でした。

スポーツマネジメント会社で任されていたスポーツ選手の社会貢献活動は、選手の年俸の一部やスポンサーの支援で成り立っており「どんなに良いことでも資金がなくなれば活動自体にも終止符が打たれることに直面した」こともきっかけのひとつでした。

2017 年、「目指す社会をビジネスで実現したい」福寿さんは日本財団からのバックアップを受けて就労継続支援事業所（A 型）の認定を受けた店舗を従来の店舗に加えて開店します。店舗によって一般社団法人と株式会社で運営を分けている理由について聞かれると、一般社団法人で支援事業所の認定を受けていることを教えてくれました。ただ、認定を維持するのに分かったことがありました。①福祉の資格を持つ方で花を扱う仕事の経験がある方の採用が困難である、②行政への報告業務が煩雑である、③ルールに沿った障害支援もしながら売上の収益からしか給与を出してはいけない。このようなことから現在は、株式会社でしっかり雇用していく方針に転換しています。

法人営業を主な収入源とし、ブライダル装花や企業の CSR 活動の一環で 10 万本の花を使ってフラワーロードを制作し、障がい者も健常者も制作を通じて交流するなどの機会を作っています。

センパイからの助言

Q、どのように人材を確保しているのか。
A、 生花店専用の求人サイトで募集。メディアでの紹介も多くなってきたので現在は、半数が求人サイトを通じた応募となっている。スキルは後からついてくるので仕事に対する意欲に重点を置き採用活動をしている。

Q、事業を続けるモチベーションは？
A、 根っからの負けず嫌い。店舗の物件探しで失敗したことを例に挙げ、一度入居した店舗で大家さんからやっぱり障がい者の方は無理ですと言われ、退去し大きな損失も出てしまったことがあった。事業自体も諦めてしまいそうになり、その他にもさまざまな葛藤があった時、将来、この話をどんな場でどう笑い話で伝えようかと想像をすることで、大きな壁をいくつも乗り越えてきた。

Q、ビジネスを始めたいと思っても一歩を踏み出すのに躊躇してしまう。どうすれば？
A、一生起業準備中の人はたくさんいる。やりたいと思った時が始め時で自身も人生で一番若い状態。失敗するならなるべく 20代だと思う。でも本気なら思った時が吉日。